

JA全農 WEEKLY

5面

全農×(株)フェリシモ「純農」プロジェクト 4月で立ち上げから1周年(フードマーケット事業部)

2面

臨時総代会後に



臨時総代会後の記者説明会であいさつする長澤豊会長=右から2人目(2面)



中学生でタネの流通会社を起業した小林宙(そら)さん(7面)



インターネット販売の純農4月カタログの表紙(5面)

- 2 農泊推進へ事業実践協定締結(くらし支援事業部)
実証農場でJGAP認証取得(群馬県本部)
- 3 茨城県内でBB肥料の広域流通拡大(茨城県本部)
TACがキュウリ、ナスの栽培技術学ぶ(耕種総合対策部)
花の消費喚起へJAビルで職員に花束販売(総務人事部)
- 4 国産果汁菓子シリーズをリニューアル(全国農協食品株)
新感覚グミ「コロロ鶴姫レッド」を先行発売(営業開発部)
- 6 令和元年度JAグループ農機サービス士29人認定(耕種資材部)
- 7 中学生でタネの流通会社を起業した小林宙さんインタビュー(広報・調査部)
- 8 第4回「全国高校生 農業アクション大賞」募集開始(広報・調査部)
ラジオ番組「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」プレゼント(広報・調査部)
JAタウンショップ紹介
JA全農ながさき

Web版JA全農ウィークリーはこちら



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web限定

「JA全農チビリンピック2020」の開催延期について(広報・調査部)

事業計画記者説明会(広報・調査部)



メディアに事業計画を発信

臨時総代会後に記者説明会

広報・調査部



メディア各社を前にあいさつする長澤会長(右から2人目)

全農は3月24日、臨時総代会後の記者説明会を東京・大手町のJABビルで開き、令和2年度事業計画について新聞などメディア各社に説明しました。

全国紙や業界紙、テレビなどのメディア19社が参加しました。長澤豊会長は「引き続き自己改革の取り組みを加速する」と述べ、令和2年度事業計画に盛り込んだ生産基盤の確立など重点5施策の実践に意欲を語りました。メディア各社からは、新型コロナウイルスによる全農の事業への影響に関する質問などがありました。

全農は3月31日、株式会社農協観光と農林中央金庫、一般社団法人日本ファームステイ協会の4者で、農泊事業実践協定を締結しました。農村地域で農泊の取り組みを連携して進め、地方創生を目指します。

農泊推進へ事業実践協定 地方創生目指す

農協観光、農林中金、日本ファームステイ協会と締結

くらし支援事業部



JAGグループは、第28回JAG全国大会で農泊推進に取り組み方針を打ち出しており、今回の協定締結はその一環です。農泊事業のノウハウを持った日本ファームステイ協会とJAGグループ各者の強みを發揮し、農泊に取り組みJAGの拡大や支援、JAGグループが中心となった農泊のモデル構築、農泊の品質評価支援制度の確立、インバウンドの取り込み支援などに向け、多面的に協業します。

全農は3月31日、株式会社農協観光と農林中央金庫、一般社団法人日本ファームステイ協会の4者で、農泊事業実践協定を締結しました。農村地域で農泊の取り組みを連携して進め、地方創生を目指します。



実証農場でJGAP認証を取得

県内への認証普及の拠点に

群馬県本部



JGAP認証を受けた農場・担い手サポートセンターの職員

同農場では認証に向けた取り組みを2019年5月に始めました。リスク管理の徹底と県内JAへ向けたGAP普及を目的に、所管するJA群馬担い手サポートセンターと農場担当者が、県普及指導員の協力を得ながら、取り組みを進めました。同農場を今後、JAや認証取得を目指す農家に対して、認証取得に関する経験や知識を伝える場として有効活用していきます。

群馬県本部園芸作物生産実証農場は3月5日付で、キュウリ・ナス・ミニトマトのJGAP認証を取得しました。

茨城でBB肥料の広域流通拡大

取り組み3年で14JAに供給

茨城県本部

BB肥料の普及に活用したチラシ

**飼料用米専用低コスト一発肥料
圧倒的低コスト肥料!!**

新しい肥料のご案内

- 90日、90日、110日の種別は窒素を含み早生から晩生まで幅広い飼料用米品種に対応
- 完全予約供給により低コストを実現

※予約品限定です

経量の15kg袋

基準施肥量: 2~2.5袋

窒素	リン酸	カリ
全量	内産物	内産物
20%	15%	15%
0%	0%	0%

茨城県本部は飼料用米の収量を上げるため、JAグリーンとちぎが供給するBB肥料の普及・拡大を進め、令和元年度で供給実績は14JA、1030トとなりました。

茨城県本部は飼料用米の収量を上げるため、JAグリーンとちぎの窒素含有量の多いBB肥料「BBファイト」を県内JAに提案し、試験展示圃も設置しました。収量増に加えて施肥コストの低減も期待できることなどを、広報誌や店頭POPなどでPR。供給量は初年度で700ト、令和元年度は「BANK」も含めて1030トに伸びました。

キュウリ、ナスの栽培技術学ぶ

TACが総合技術研修

耕種総合対策部



キュウリの栽培管理について説明を受けるTAC

研修ではキュウリ、ナスの施設栽培技術に関する座学の他、実証圃場での葉かき、つる下ろし、収穫などの実習、選果施設の視察を行いました。参加したTACは、生産者への作付け提案に結び付けようと、真剣な表情で研修に臨んでいました。耕種総合対策部は今後も、研修を通じてTACの生産現場での実践力向上を図ります。

耕種総合対策部はTACを対象に、営農技術力強化を目的とした作物栽培総合技術研修会を開いています。3月23～25日には群馬県本部の園芸作物生産実証農場で、キュウリ、ナスについて研修しました。

花の消費喚起へJAビルで職員向けに花束販売

新型コロナウイルスの流行に伴う需要減で企画

総務人事部



花の消費喚起へ東京・大手町のJAビルで職員向けに花束を販売

新型コロナウイルスの流行に伴うイベントの中止などにより、需要が落ち込んでいる花の消費を喚起しようと企画しました。400束を用意し、1束1000円で販売。それぞれさまざまな種類の花が含まれ、お気に入りの花束をじっくり選ぶ職員の姿が見られました。全農は、今後も花の消費拡大に向けた取り組みを展開していく予定です。

全農は3月26日、東京・大手町のJAビルで職員向けに花束を販売しました。

国産果汁菓子シリーズをリニューアル

ダイソーと共同開発、産地指定原料を使用

全国農協食品(株)



《商品概要》

シリーズ名:「ニッポンエール」シリーズ 全6品
 内容量:40g(グミ)、57g(キャンディ)
 発売日:令和2年4月20日(月)
 販売店舗:全国の100円ショップ「ダイソー」各店
 販売者:全国農協食品株式会社

皆さま、ぜひご賞味いただき、国産果実の美味しい旅をお楽しみください。

全国農協食品株式会社は、株式会社大創産業(ダイソー)と共同開発した「産地指定」国産果汁菓子シリーズを一新、4月20日から100円ショップ「ダイソー」全国約2500店舗で販売します。

昨年3月にダイソーと共同開発し、発売していた「産地指定」国産果汁菓子シリーズを、「ニッポンエール」ブランドとして一新しました。リニューアルした商品は、「鹿児島県産みかん」「和歌山県産赤梅」「宮崎県産日向夏」のキャンディ3種と、「山形県産ぶどう」「沖縄県産シークワーサー」「熊本県産メロン」のグミ3種です。

全国農協食品は、今回のシリーズ商品の発売を通じて、産地の知名度をアップするとともに、厳選した国産果実の魅力年全国消費者にお伝えしていきます。

Wブランド「コロロ鶴姫レッド」を先行発売

UHA味覚糖(株)と共同開発

営業開発部



今後、UHA味覚糖と共同開発し、国産農畜産物を消費者にお届けするとともに、国内農業の振興に取り組みます。

山形県の日本海側に隣接する庄内地方では、庄内砂丘と呼ばれる広大な砂丘地が広がっています。砂丘地ならではの水はけの良さがメロン栽培には最適で、古くからメロンが栽培されてきました。なかでもJA鶴岡オリジナルブランドの「鶴姫レッド」は、鮮やかなオレンジ色の果肉とコクのある甘さが特徴です。

営業開発部は、UHA味覚糖株式会社と共同で、赤肉系メロン「鶴姫レッド」を使用した新感覚グミの「コロロ」を、4月21日から全国のファミリーマートで先行発売します。

純農

全農×(株)フェリシモ 「純農」プロジェクト



4月で立ち上げから1周年
全国のJAグループと連携し商品をネット販売

全農が通販業界大手・株式会社フェリシモと共同で展開する「純農」プロジェクトが、4月で立ち上げから1周年を迎えました。
【フードマーケット事業部】

「純農」プロジェクトでは、「日本の農業を元気に!」を合言葉に、日本農業や国産農畜産物の素晴らしさをより多くの方々に知ってもらうため、全国のJAグループと連携して、国産農畜産物を主原料とした商品を販売しています。

初年度は、各地のJAが販売する加工品などをはじめ計140品を超える商品を販売しました。少しのアレンジで普段の食事の彩りが豊かになる乾燥野菜や国産野菜のポタージュなど、一般の量販店には並んでいない商品が好評を集めています。「純農ブランド」としてオリジナルパッケージで販売をしている商品もあります。その中でも特に愛媛県産のかんきつを使ったドライフルーツは、「素材本来の味が楽しめる」「手軽に食べられておいしい」などと、多くのリピーターを獲得する人気商品に育ちました。

フェリシモ会員向けの通販カタログを年3回、各30万部

ずつ発行している他、どなたでも購入可能な「純農」プロジェクトのウェブサイトを通じ、広く販売・PRを行っています。令和元年度は台風19号の被災地応援企画として「長野県産りんごジュース」を販売したり、全農ミートフーズ(株)と連携して「産地直送ギフト企画」を展開したりするなど、スポット企画も実施しました。

令和2年度もプロジェクトのさらなる活性化に取り組んでいきますのでぜひ一度、「純農」プロジェクトのウェブサイトをご覧ください。また、プロジェクト事務局(フードマーケット事業部リテール事業課)では、「この商品をプロジェクトで扱ってほしい」といった提案もお持ちしております。



「純農」プロジェクトのウェブサイトはこちら



純農4月カタログ。
表紙と中面

令和元年度

JAグループ農機サービス士 **29人** を認定 技術力向上で組合員との信頼強化へ

全農は、令和元年度JAグループ農業機械検定の1級合格者9人、2級合格者20人を新たにJAグループ農機サービス士として認定しました。【耕種資材部】



JAグループ農業機械検定は、経験年数に応じた農機担当者のスキルアップを目的に、平成23年度から実施しています。実際の修理・整備に必要な知識・技能や、メーカー固有の機構・新技術、納品・安全指導など、より業務に密着した内容を試験に取り入れています。

令和元年度は1級56人、2級97人が受検し、学科試験と実技試験の両方で合格基準に達した1級9人(合格率16%)、2級20人(合格率21%)をJAグループ農機サービス士として認定しました。令和元年度の合格者を含め、累計326人(1級56人、2級270人)のサービス士が全国の農機センターで活躍しています。

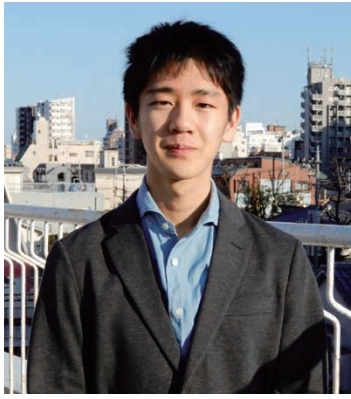
この検定により、JAグループ農機担当者の一層の知識習得と技術の研鑽を促し、組合員との信頼がより一層強化されるものと期待しています。令和2年度のJAグループ農業機械検定は、6月公示、11月学科試験の予定です。

令和元年度 JAグループ農機サービス士 認定者氏名

等級	氏名	県名	所属
1級	関谷 隆志	栃木	JAなすのサービス(株)
	山田 渉	新潟	JA佐渡
	白山 真	三重	JA津安芸
	黒田 卓児	佐賀	JAさが
	中島 敬之	佐賀	JAさが
	安光 豊	山口	全農山口農機事務所
	猶 澄仁	山口	全農山口農機事務所
	中谷 海洋	山口	全農山口農機事務所
	近藤 隆雄	山口	全農山口農機事務所
2級	大木 直己	山形	JA山形おきたま
	櫻井 正尚	岐阜	JAめぐみの
	伊佐治大河	岐阜	JAめぐみの
	鈴木 将広	愛知	JAあいち経済連
	生川 宗明	三重	JA鈴鹿
	竹本 圭佑	広島	JA広島市
	山森 篤	福岡	JA北九
	江島 準二	佐賀	JAさが
	北島 靖久	佐賀	JAさが
	田中 祐之	佐賀	JAさが
	大野 悠磨	栃木	全農栃木県本部
	舘野 祐樹	栃木	全農栃木県本部
	篠木 一訓	埼玉	全農埼玉県本部
	吉川 拓郎	滋賀	全農滋賀県本部
橋本 宗明	京都	全農京都府本部	
大内 修瑛	本所	全農本所	
末廣 将大	本所	全農本所	
深見 弘太	本所	全農本所	
平田 祐貴	本所	全農本所	
金谷 充泰	本所	全農本所	

中学生でタネの流通会社を起業した小林宙さんインタビュー タネを手放すことは未来を手放すこと。 伝統野菜を守り、つなげていきたい

中学生でタネの流通会社を起業した小林宙^{そら}さんは、今年4月から高校3年生になりました。昨年9月に出版した「タネの未来」という起業記が話題を呼び、イベントや講演などでも大活躍。全国各地の種苗店を巡って集めた伝統野菜のタネを販売しています。なぜ、タネの会社を創業したのか、タネの多様性を守ることの大切さなど、奥深くてちよっと複雑な現状を語っていただきました。【広報・調査部】



こばやし・そら 2002年、東京生まれ。中学3年生でタネの流通・販売を手がける「鶴頸種苗流通プロモーション」を起業。群馬県伊勢崎市の畑で野菜を栽培し、販売も行う。著書に『タネの未来／僕が15歳でタネの会社を起業したわけ』（家の光協会発行）がある。

鶴頸種苗流通
プロモーションはこちら▶



——15歳で「鶴頸種苗流通プロモーション」という会社を立ち上げましたが、具体的にどんなことをしているのですか？

小林さん 主な仕事は、日本中を訪ね歩き仕入れてきた伝統野菜のタネの販売と、農薬や化学肥料を使わずに自分で栽培した野菜の販売です。伝統野菜の中でも京野菜のようなブランド化さ

れている野菜ではなく、消滅してしまう可能性の高いタネを集めて流通させることで、保存していくことが最大の目標です。

——そもそもタネに注目したたのはいつ頃からですか？

小林さん 小学校低学年の頃からホームセンターで野菜や花のタネを買ってもらって育てるようになりました。自分で育てた野菜

の味は格別おいしかったし、どんどんタネの収集と野菜の栽培にはまっています。ホームセンターにあるタネはほんの一部にすぎません。カタコクにないものを探し、伝統野菜と呼ばれる野菜があることを知ったのは大発見でした。時間をみつけては全国の種苗店を訪ね歩くようになりました。

——地方の珍しいタネをコレクションするだけでなく、全国に流通させようと思ったのはなぜですか？

小林さん 伝統野菜のタネの多くはその地域の中だけでは出回らないし、何代にもわたって受け継いできた採種農家がタネ取りをやめてしまったらその野菜自体が世の中から消えてしまいます。それは、せつかく育まれてきた地域ならではの味、食文化・伝統がすっかりなくなってしまうということ。伝統野菜を未来に残すために、なくなりそうなタネを全国規模で流通させて保存していく、それを事業化していこうと思いました。

実際現地には足を運ぶと、インターネット上には情報がない作物

に出合えたり、地元の人との交流が生まれたりしてすごく楽しいです。

——生きるために多様性を守ることが必要と訴えています。具体的にいうと…

小林さん 遺伝的多様性があるほど生き延びる可能性がある。例えば、寒さに強いジャガイモと暑さに強いジャガイモがあれば、気候が偏った時にその環境に強いジャガイモが残る。ジャガイモとマメを栽培していれば、ジャガイモが全滅してもマメが残る。種が多ければ多ほど安心というわけです。

今は温暖化で暑さに強い品種があればいいけど、氷河期に入った時、寒さに強い品種がなくなっていれば作物は育ちません。多様性を守ることは食糧危機を防ぐためでもあるんです。

——多様なタネを残すことが、私たちの未来をつなぐことなのですね。

小林さん 日本の野菜の多くは在来のタネでなく、F1品種のタネから作られたものに変わっています。日本や世界にもともとあった在来種（伝統野菜）は年々数を減らし、何もしなければどんどん消えてしまう。だから僕は

タネを守り、未来に残したい。伝統野菜を守っていこう、作り続けていこうという流れが、日本中に巻き起こっていくことを願っています。

多様性が損なわれて画一的なタネばかりになると病害虫や異常気象などの影響が心配です。「何を食べるのか」「何をやるのか」を選ぶのは私たちです。日々口にしている食べ物のことを見つめ直し、地域の食文化や歴史を守っていきたいですね。（月刊『A P r o n』2020年3月号から転載）

本プレゼント

小林宙さんの著書『タネの未来』を5名様にプレゼントします。

応募方法 郵便はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、『JA全農ウィークリー』の感想をご記入の上、ご応募ください。

応募先 〒100-6832 東京千代田区大手町1-3-1 JA全農広報・調査部 JA全農ウィークリー『タネの未来』プレゼント係

締め切り 令和2年5月1日(金)当日消印有効

*応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

*いただいた個人情報、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

農高生の農や食のプロジェクト応援

第4回「全国高校生 農業アクション大賞」

募集開始

締め切りは
6月30日

全農は2020年度も、「全国高校生 農業アクション大賞」(主催:全国農業協同組合中央会、毎日新聞社)に協賛します。

【広報・調査部】

「農業アクション大賞」は農業高校の生徒グループによる農や食に関するプロジェクトなどを支援・顕彰し、農業をはじめ第1次産業の振興に貢献することを目的としています。

全農は協賛を通じて、担い手育成をはじめ農業や教育の振興を応援していきます。

第4回「全国高校生 農業アクション大賞」の募集期間は6月30日までとなっています。

応募はこちら



19年度 全国高校生農業アクション入賞

主催:全国農業協同組合中央会 毎日新聞社 協賛:全国農業協同組合連合会
後援:農林水産省 文部科学省 全国農業高等学校長協会 東京農業大学



2019年度で大賞に輝いた栃木県立鹿沼南高校生と審査委員の尾木直樹さん(右)

全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

4月25日放送のプレゼントは、熊本県産のアールスメロン(2玉)です。メロンの王様ともいわれるアールスメロン。上品な甘みと芳醇な香り、滑らかな口当たりをお楽しみください。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは4月25日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

こちらの商品はJAタウンからご購入いただけます。

JAタウン <https://www.ja-town.com/shop/g/g830103/>
(ショップ名: you+youくまもと 農畜産物市場)



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

JA全農ながさき

びわの産地、JA全農ながさきから、同県特産品の「びわ」を紹介します。

江戸時代からびわ栽培の歴史がある長崎県は、日本の最西端に位置し、海に囲まれ、温暖な気候に恵まれているため、日本最大のびわ産地となっています。

露地栽培だけでなく、ハウス栽培も県下全域に拡大し、大切に育てられたびわの収穫時期は、ハウス栽培では2~4月に、露地では5~6月に収穫を迎えます。

海からの風に包まれ、降りそそぐ太陽の恵みをその果実にたっぷり詰め込んだ「長崎びわ」。初夏の訪れとともに、甘くてジューシーな味わいを皆さんにお届けします。長崎県を代表する特産品、「長崎びわ」をこの機会にぜひお召し上がりください。



長崎県産ハウスびわ(1ケース約500g L・2L規格)……3500円

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちらから



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。